

テレメトリー等を活用した科学的手法によるニホンザルの被害防止対策 —青森県深浦町—

- 日本獣医生命科学大学羽山教授、NPO法人北限の野生動物管理センター山崎理事ら専門家と連携して、ニホンザルの群数、個体数、生息状況を把握し、群れごとに対策を検討。
- 町臨時職員4名を実施隊員に指名し、被害防止対策を担う人材を育成。
- 農作物被害だけでなく、人慣れし、里に居ついた群に対して全頭捕獲を実施。

深浦町の課題

○サル被害の課題

深浦町のニホンザルは1970年台後半に山間部の集落に出没し始め、徐々に出没地域が拡大し、現在では、町内全域に出没。民家付近に居つき農作物被害に加え、人家侵入などの人的被害も発生。



【サルによるネギの被害】

○サルの生息数の増加

平成24年度末に27群864頭であったニホンザルが、平成27年度末には、32群1,030頭と2割増し、被害防止対策が急務となった。

主な対策

○実施隊員の養成

鳥獣被害対策実施隊員として、平成23年度に、臨時職員2名、平成26年度からは、さらに2名を増員し、計4名で被害防止対策を実施。

○サルの遊動域及び生息数の把握

テレメトリー発信器を活用して、群れごとの遊動域と生息数を調査し、サルの行動を見える化。



○里に居ついた群れの全頭捕獲

専門家の指導のもと、里に居ついた群れのGIS（地理情報システム）を活用した遊動域調査や箱わなの重点設置、ICTを活用した箱わなにより全頭捕獲

○緊急捕獲活動支援事業の実施

急増したニホンザルの生息数を半減させることを目標に、猟友会等関係機関と連携して、捕獲の取組を強化

対策の効果

○里に居ついた群れの全頭捕獲

全頭捕獲に取り組んで約1年で、2群62頭を全頭捕獲し、群れ除去に成功。



里にいたサルがいなくなったので、安心して農作業ができて、助かっています。

緊急捕獲による捕獲圧の強化で、ニホンザルを農地で見かけなくなってきたよ。

○深浦町のニホンザルの生息数の推移

H27年度：32群1,030頭（生息数のピーク）

▲30%

H29年度：41群716頭

○深浦町のサルの農作物被害額の推移

H18年度：1,428万円

▲77%

H29年度：331万円

深浦町沢辺地区におけるニホンザル加害群の全頭捕獲の取組

背景

深浦町沢辺地区には、2群62頭のニホンザルが、里に居ついて人慣れしていることが確認されており、農作物被害だけでなく、人家侵入などの被害も発生していた。

このため、この2群を全頭捕獲することとした。

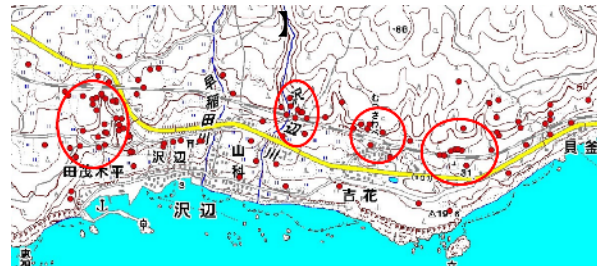
【対策実施前に把握していた遊動域】



ステップ1

専門家と連携し、テレメトリーを活用して、沢辺地区の2群の遊動域を詳細に調査して、地図上にプロットすることニホンザルがよく使う場所を特定。

【サルの行動が見える化】



ステップ2

ステップ1で特定した場所に、箱わなを37基設置して、全頭捕獲を開始し、捕獲を進めた。

この結果、群れが合流し同地区の群れは1群10頭となった。

【箱わな設置場所】



ステップ3

群れの頭数が10頭未満となったところで、通常の箱わなでは、捕獲効率が極端に低下したため、ICT活用遠隔操作檻を導入して、冬期間の捕獲を実施した。

【ICT活用遠隔操作檻設置状況】



捕獲完了

平成30年2月3日、最後の2頭を捕獲し、群れの全頭捕獲が完了した。

【全頭捕獲完了】



今後の対応

○同地区の近隣には、複数の群れが生息していることから、近隣の群れの遊動域調査を継続的に実施

○ 群れの侵入が危惧される場合には、その群れに対して、追い払いや捕獲を実施し、群れの人慣れが発生しないよう取り組んでいくこととしている。

データに基づいて、継続的に取り組んでいくことが大事です。

